

細則様式第 4 号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏名	清水真由美		
入学年度	平成 26 年度	学籍番号	14GG601
領域	健康支援科学	分野	健康増進科学
審査委員	主査	齋藤久美子	
	副査	渡邊 純	
	副査	野戸結花	
	副査	西沢義子	

論文題目： 看護職の安全確認行動に影響を及ぼす要因に関する研究

審査結果要旨：

本研究では、A 病院のインシデント発生状況を把握し、その中でも発生頻度が高い与薬に注目し、プロセスごとのインシデント発生要因を経験年数と部署配置年数別に明らかにした。研究Ⅰでは、過去3年間のインシデント報告書 5367 件を、インシデント発生状況及び業務内容や発生要因との関連で明らかにした。薬剤業務に関する発生頻度は 38.5%と多く次いでドレーン類 25.9%であった。経験年数別では 2-10 年が多く、発生要因は「確認不十分」がどの経験年数でも多かった。

研究Ⅱでは、配薬カートを用いた内服薬のインシデント 510 件の発生要因を経験年数と部署配置年数別に明らかにした。経験年数では 2-10 年が多く、プロセスでは準備段階が多く、発生要因は「確認不十分」が最も多かった。各プロセスにおける経験年数と発生との関連をコレスポネンス分析からみた結果、すべてのプロセス、経験年数において「確認不十分」と強い関連がみられた。経験年数別に発生要因のみではなく、発生要因の頻度、当事者要因、確認不足の内容、各業務ごとの発生要因の関連性等詳細に分析し、今後の看護職のインシデント予防対策に具体的な示唆が得られた。

審査論文ではこれらの研究内容について系統的かつ過不足なく論述されており、新たな知見を含んでいることが認められ、学位審査会における質疑応答も適切であった。

以上により、本論文は博士(保健学)の学位論文に値すると認められた。

最終試験 平成 29 年 2 月 1 日

試験の結果は 合格 と判定する。